

## 令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立中央特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立中央特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	160人

### 1. 使用状況

寄贈物品名	TDパイロット（視線入力装置）
使用学年及び人数	高等部生徒約20～30人（主に、高等部3年自立3グループの生徒）
使用頻度	週に3回程度
使用状況	<p>寄贈いただいたTDパイロットを活用して、教職員や友達と会話を進める生徒は、脳性麻痺と知的障害を併せ持つ高等部3年生の生徒である。発語が難しいが内言語は豊かで、普段は『DropTalk』（iPadアプリ）に設定してある16種類の用語を選び、ゆっくりではあるが腕を動かし画面をタップして、思いや考えを伝えていることが多い。</p> <p>TDパイロットでは、コミュニケーションの手段として主に『TD Snap Life』アプリを使用した。「トイレに行きたいです。」「横になりたいです。」「お茶を飲みたいです。」などと気持ちを伝えることができるように、生活上必要な項目を入力している。また、朝の会の進行ができるように、会のプログラムを入力して使用した。他にも『YouTube』の視聴を余暇時間に行った。そうすることで、教員だけでなくグループや学部の仲間とのコミュニケーションを図ったり、朝の会を進めることができたり、余暇時間を有意義に過ごすことにつながることでもできた。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>側弯手術を行った直後であったため、上腕の筋力が低下しており、タブレット端末をタップすることが難しくなっていた生徒が、TDパイロットを使用することで、ベッドで身体を横にして休みながらでも、術前と同様のコミュニケーションをとることができた。</p> <p>文字入力が、普段のタブレット端末では難しかったが、TDパイロットを使用することで可能になった。まだ誤字脱字はあるが、概ね教員が提示する文章を入力することができるようになり、意欲的に学習に取り組んでいる。</p> <p>休み時間の余暇活動では受動的な過ごし方をしていたことが多かったが、TDパイロットを使用することで『YouTube』を自分で操作できるようになり、自分の好きな戦隊物のPVを観たり、好みの音楽を聞いたりして一人でも、周囲に友達がいても充実した余暇時間を持てた。</p>
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は、まず本生徒がTDパイロットの利用を通して、多くの生徒と関わろうとしているが、今後は他の児童生徒も活用できるよう、使用方法と効果や、操作感などを広く校内に周知していき、視線入力機器が手軽に使用できる環境を整えたい。</li> <li>・オールインワンハードウェアであることを活かして外出時に利用することもできるため、車いすなどの移動用具にアームをにつけ、校外学習をはじめ生活全般で利用していきたい。</li> </ul>
その他希望や所感など	<p>タブレット端末のアプリケーションを利用できることから、これからは、利用するアプリケーションを選定していきたいと考える。しかし、デフォルトのアプリケーションはよくできていたがアップデートに有料の部分があったり、今まで使っていたアプリケーションを使えなかったりして、戸惑うこともあった。より多くのアプリケーションが最初から使えると、興味を持った生徒が増えて利用機会も増えるのではないかとと思う。</p>

## 2. 活用の様子

